

富山県教育委員会教育長 殿

富山県立小杉高等学校
校長 木倉敏彦

令和6年度学校総合評価を別紙(様式5)とともに提出します。

令和6年度 学校総合評価

6 今年度の重点課題に対する総合評価

これまで行ってきた授業改善に係る研究の成果をベースに、特に指導と評価の一体化を進めることで、教員の指導力向上を図ってきた。また学習のみならず、学校生活全般にわたって主体的・協働的に活動できる生徒の育成に努め、生徒の多様な進路実現を着実に支援する指導の改善・充実に重点的に取り組んだ。また、本校が育てたい生徒像(小杉高等学校グランドデザイン)に基づいて、生徒の自己評価(小杉高等学校 Graduation Policy)も行った。

(1) 基礎基本の徹底

将来の社会生活の基盤となる基本的な生活習慣の定着を重点として取り組んだ。具体的には、あいさつ、睡眠時間の確保、朝食の摂取、携帯電話の利用等について日常的に指導し、生徒に定期的にアンケートを行って自分の行動を振り返り適切な行動を考える機会を設けた。

あいさつについては、生徒指導部長を中心に数名の職員が生徒玄関で挨拶をする取り組みが毎日行われている。他にも地域のあいさつ運動への参加、職員による玄関指導、そして生徒会が昨年から行っているあいさつ運動に自律委員も加わって活動が盛んに進められており、明るく挨拶を交わす雰囲気ができてきた。

また保健委員に、健康課題についてのアンケートをとったうえで健康に関するポスターを作成させたところ、スマホ・睡眠を中心に健康に対する意識が高まった。

(2) 実効性のあるキャリア教育の推進

3年間を見通したキャリア教育を計画的、継続的に行い、職業観を育み、進路意識の向上に努めた。上級学校訪問、大学学部学科調べ、射水市政出前講座、県外進路研修、社会人班別講話等を実施し生徒の進路意識を高め、系列選択や進学・就職先の選定に役立てた。また本校では、計画的に高校生活を送るため生徒に手帳の活用を勧めているが、活用できたと答えた生徒の割合は目標の6割に達しなかった。メモすることのメリットを折に触れて伝えていくとともに、使用目標を段階的に設定することで、手帳を活用できる生徒を増やしていきたい。

(3) 多様な進路実現に向けた学習機会の充実

観点別評価への理解が進み、到達目標、評価基準を明確にした上で、生徒に主体的に考えさせる授業が行われている。また学校行事やホームルーム活動、委員会活動では、生徒会役員やクラス委員を中心に主体的に行えるよう教員が細やかに支援しており、自己達成感を持つ生徒が全校生徒の9割以上となった。声かけを工夫することで、ボランティアに参加する生徒を増やすこともできた。

(4) 教員の指導力・学校組織力の向上

例年校内で開いている公開授業研究会では、指導と評価の一体化をテーマにした講演会を行った。ICTの効果的活用と同様にこの内容についても教員同士が話し合っているのをよく見かけるようになっており、学校ぐるみでの授業改善が進んでいる。

7 次年度へ向けての課題と方策

本年度は、「小杉高等学校グランドデザイン」を基に、各教育活動を通して、「身に付けさせたい8つの力(①実践力・②協働力・③探究力・④発信力・⑤創造力・⑥自主性・⑦人間関係形成力・⑧自己管理能力)」を明確にし、その中で「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力」「学びに向かう力、人間性」の育成と涵養に努めてきた。しかしながら、まだ自ら課題を見つけ、深く思考し、仲間と果敢に解決に立ち向かう生徒の育成には課題が見られる。次年度も引き続き、全教職員で共通理解を図りながら取り組んでいく必要がある。

(様式5)

8 今年度の重点課題 (学校アクションプラン)

令和6年度 小杉高校アクションプラン - 1 -	
① 重点項目	学習活動 (学びに向かう生徒の育成)
② 重点課題	主体的・対話的で深い学びを引き出す授業改善に向けた生徒・教員への支援
③ 現 状	<ul style="list-style-type: none">・主体的、対話的で深い学びを引き出すため、ICT 機器の活用を促進させるとともに、公開授業 WEEK や公開授業研究会等を通じて、指導と評価の一体化を目指した授業改善に継続的に取り組んでいる。・昨年度の生徒の主体性に関する学習診断シート集計結果からは、計画や目標を立てて学習する生徒は多い反面、不明な点は積極的に解決しようとする生徒は年度比較で減少傾向にある現状が見られる。
④ 達成目標	<ul style="list-style-type: none">・生徒…授業に臨む姿勢(主体的な学習態度)や家庭学習のやり方についての自己評価に向上が見られたか。(年度比較・学期比較)・教員…観点別評価に基づく授業計画を進め、ICT機器を活用し、授業改善と評価集計の効率化に向上が見られたか。(年度比較) 達成目標に対する生徒の自己評価と教員の自己評価の内容について、前年度集計果で評価が向上した項目の数が増加すること。同様に他の項目も前年度並の水準を維持していること。
⑤ 方 策	<ul style="list-style-type: none">・学期毎の学習診断シート集計結果(年間 5 回)を担当が面談等で活用しやすいよう資料化し、生徒の意識向上につながるようにする。・昨年に引き続き授業改善の取り組む上で、①ICT 機器の活用 ②観点別評価への対応を改善し、教員の自己評価を向上させる。
⑥ 達成度	生徒の自己評価と教員の自己評価について、それぞれ学習診断シート集計結果と、教員の授業自己評価集計結果のどちらも改善・向上の傾向が見られること。
⑦具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none">・生徒…タブレット端末を活用した学習状況の振り返りや、考査ごとの観点別評価や学習診断にもとづき「粘り強く学習に取り組む・自らの学習の調整力」を育み、授業に臨む姿勢や家庭学習のやり方についての自己評価に向上が見られる。・教員…校内ICT研修会の受講やICT支援員の積極的な活用により、教科指導と評価の一体化に即したICT活用が促進された。
⑧評 価	B <ul style="list-style-type: none">・生徒の自己評価…授業に臨む姿勢や家庭学習のやり方等各項目で「あてはまる」・「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒の比率が、年度比較で<増11同2減7>、同年比較で<増10同5減5>と増加・向上傾向が見られた。増加の項目が少ない学年も「あてはまる」に限定すれば増加している項目のほうが多かった。・教員の自己評価…昨年度との比較で授業改善に関する項目の総平均が3.2→3.4に上昇、平均が上昇した項目は9項目(4項目で0.3ポイント以上の上昇が見られた)ICT活用では「よく活用している・活用している」の割合増(95.6→100%)、観点別評価では「評価方法を理解し準備」で項目の割合増(69.2→73.7%)、「評価のための準備(ルーブリック等)」の項目で割合増(84.6→88.4%)が見られた。
⑨学校関係者の意見	とても詳細なアンケートをとっておられる。それぞれの質問項目のつながりをもたせるような工夫がなされるとさらに良くなる。
⑩次年度へ向けての課題	生徒の自己評価データはアンケート集計後、早期に生徒にフィードバックすることで生徒の次の主体的な学習計画に活かせるようにしたい。教員の自己評価を向上させるための新たな取り組みを、業務の負担にならないように工夫して行きたい。

(評価基準 A : 達成した B : ほぼ達成した C : 現状維持 D : 現状より悪くなった)

①重点項目	学校生活（生徒指導）
②重点課題	社会生活の基盤となる基本的な生活習慣の確立
③現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・地元の中学校からの入学者が4割程度いるが、県内の広い地域からの生徒で構成されている。 ・女子生徒が全校生徒の約70%を占め、生徒の多くは、穏やかで素直な生徒が多い。 ・生徒の中には教職員にしっかりと挨拶ができない者がいる。また、挨拶を交わしても声が小さかったり、うなずくだけの生徒も多くいる。 ・時間厳守、服装など、指導を要する生徒が一部見られる。 ・天候や環境等の状況によっての変動を踏まえ、先を見越した余裕を持った主体的な行動がとれない生徒も見られる。
④達成目標	毎日、来校者や教職員、友人と自ら挨拶を交わせた生徒の割合
	80%以上
⑤方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員が一体となり、生徒指導上の問題や課題の解決、改善に向けてしっかりと取り組むとともに、学校全体としてルールやマナー等を守っていきこうとする機運を高める。 ・毎朝、生徒指導主事等が生徒玄関において生徒の登校指導を行い、挨拶、服装、時間厳守等と呼びかける。 ・あいさつに関するアンケート調査を行い、実態把握に努めるとともに、改善点を明確にし、自ら挨拶を交わすことができる生徒を育成していく。 ・生徒会執行部と自律委員会が中心となり、適宜、朝の挨拶週間を設けるなど、主体的な活動を充実させる。 ・元気な挨拶については、生徒会執行部や自律委員会が全校生徒に向け、提案や啓発活動を行い、生徒自らが元気な挨拶ができるよう意識を高めさせる環境づくりを積極的に行っていく。
⑥達 成 度	<ul style="list-style-type: none"> ・「あいさつ」に関するアンケート結果より、学校で教職員や来校された外部の方に「あいさつ」を行うという生徒の割合は約98%であった。また、自分から人に挨拶することは難しくはないと思っている生徒の割合は約89%であった。
⑦具体的な 取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝、生徒指導主事の他、管理職を含めた有志教員による玄関指導を実施。 ・4月と9月に地元三ヶ地域自治振興会主催による小杉駅前での挨拶運動に、地域住民と教員、4月は生徒会執行部、9月は自律委員が参加。 ・学期毎に全教員による登校時の玄関指導を実施。 ・5月、10月に生徒会執行部と自律委員会主催による生徒中心の挨拶運動の展開。 ・9月にPTA生活指導・家庭教育委員会と教員主催による生徒玄関前及び通学路交差点での登校指導の実施。 ・12月に全校生徒に「あいさつ」に関するアンケート調査の実施。 ・アンケート調査結果を基に、自律委員会が改善点や意見を出し、今後に向けて生徒主体による取り組みについて考えた。
⑧評 価	B 社会生活の基盤となる基本的な生活習慣の確立「あいさつ」の指導では、PTAも含めた学校全体で組織的に取り組むことができた。
⑨学校関係 者の意見	小杉高校生には、地元三ヶ地域の挨拶運動に参加してもらい、気持ちのよい挨拶をしてもらっている。社会人になった時のために、高校時代に挨拶の意味を意識させておくことはとても大切だ。
⑩次年度へ 向けての 課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・自律委員会が中心となって、朝の挨拶週間を設けるなど、生徒による主体的な活動を充実させていく。また、生徒会執行部と自律委員会が連携し、全校生徒に向け、提案や啓発活動などを行い、生徒自らが元気でさわやかな挨拶ができるよう意識を高めさせる環境づくりを積極的に推進していく。 ・学校全体としてのルールやマナー等を守ろうとする機運を醸成していく。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

① 重点項目	学校生活（保健指導）	
② 重点課題	基本的な生活習慣の確立と生活時間の自己管理能力の向上及び定着	
③ 現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ここ数年、生活習慣を見直す機会と自身の健康自己管理能力の向上を目的として、健康セルフチェックを行ってきた。それにより生徒が各自自分の生活習慣や時間の使い方について見直し、改善する者も見られた。自身の健康管理は生涯にわたって必要であるが、多くの生徒が改善すべき点の「気づき」を実行に移すところまではできていない。 ・自己決定・自己管理能力は社会に出てからも必要となってくるが、授業の様子や保健室来室者の様子から、自主的に健康管理ができる力の未熟さを感じる。 	
④ 達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・健康セルフチェックでの結果が1年を通して向上するとともに、2・3年生は昨年度との比較でも良い方向に数値が向上することを目指す。 	
⑤ 方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も定期的に健康セルフチェック強化週間(5, 7, 9, 10, 12月)を設け、アンケートを通して自己評価を行うとともに、生活習慣と時間の使い方改善の意識を高める。 ・教員の毎日の健康観察を通して自分の体調を常に管理できるように促す。 ・学校保健委員会や健康講話、保健だよりなどを通して生活習慣の重要性や時間の使い方について考える機会を増やし、学校と家庭の連携に努める。 	
⑥ 達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・健康セルフチェックの結果、今年度に関しては概ね数値は良い方向へ向上した。ただ2・3年生に関して昨年度からの経過を見ると、2年生に関してはどの項目もほぼ横ばいであり、3年生に関しては睡眠や携帯については多少向上した。 ・生徒の振り返りを見ると、携帯使用の自己管理と睡眠との関係についての意識づけが必要と感じている生徒が多いことがうかがえた。 ・養護教諭による個別指導により、就寝時間を早めるなどの生活改善ができた生徒もいた。 	
⑦ 具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度から継続して、健康セルフチェックを5回(5, 7, 9, 10, 12月)実施するとともに、毎回簡単に振り返りを記入させた。また、2・3年生については昨年度からの比較ができるようにした。 ・学校保健委員会では生徒保健委員会から、2・3年生について昨年度同時期と比較して気づいたことについての発表を行い、学校医の高橋先生より睡眠を中心として健康的に生活を送るためにはどうすればよいかについて講演をしていただいた。 ・保健委員の生徒に「各々が感じる健康課題」についてアンケートを行い、それをもとにポスターを作成・掲示した。(高橋先生の講演での学びから、「睡眠」をテーマにする生徒が多かった。) ・健康セルフチェックの結果や生徒の感想を1月にPTA保健委員に配布し、保護者としての意見を聞いた。その中には、スマホの与える影響が睡眠をはじめとするすべてに関わっているのではないかと、という意見やデジタルデトックスの重要性についての意見などがあった。 	
⑧ 評 価	C	1年間の中では数値は向上するものの、2・3年生の結果からみられるように継続しての意識の定着ができておらず昨年度と同様の結果であったことを踏まえ、Cとした。
⑨ 学校関係者の意見	保健委員の生徒を中心に健康課題について話し合わせる機会をもってはどうか。友人同士話し合っって課題解決していくのではないかと。また、健康セルフチェックや生徒の感想をPTA保健委員に配布して、保護者としての意見を聞いておられる。この意見を保護者全体に伝え、生徒にも伝えることでさらに改善が進むのではないかと。	
⑩ 次年度へ向けての課題	昨年度から継続的に行ってきたり、今後も継続的に行っていきたいと考えている。次年度はセルフチェックの記入の際の投げかけ方法を検討したり、特活部と連携して統一HRで話し合いの場を設けるなど生徒への還元の方法について見直したりし、時間の管理や自己管理能力が少しでも育つよう進めていきたい。	

① 重点項目	進路・キャリア支援										
② 重点課題	3年間を見通したキャリア教育の推進と進路実現										
③ 現 状	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な進路目標のない生徒や将来やりたいことがわからない生徒がいる。具体的な進路目標が定まっても自主的、意欲的に学習に取り組まず、学力不足のまま入試をむかえる生徒も見られる。 自己管理のための「手帳」は3学年になると活用頻度が増えるが、1、2年生は活用しきれていない。 										
④ 達成目標	1・2年生 「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」が、系列の選択や将来の職業観を踏まえた自分の生き方・考え方などによって、参考となったと考える生徒の割合	3年生 進路決定先に満足している生徒の割合	全学年 高校生活を過ごす上で手帳を活用できたと考える生徒の割合								
	85%以上	80%以上	60%以上								
⑤ 方 策	<ul style="list-style-type: none"> 3年間を見通したキャリア教育を計画的、継続的に行い、職業観や就業観を育み、進路意識の向上をはかる。 継続的な個別面談を行い、早期に進路目標を設定したり、学習意欲を喚起したりする。小杉高校GP自己評価を行い、その結果を個人面談や進路指導に活かすことで、多様な生徒の進路実現につなげる。 「手帳」を活用することにより、スケジュール管理をし、自分の行動を振り返る習慣を身に付け、自ら学び主体的に行動できる生徒を育成し、生徒の進路実現を目指す。また、タブレットPC等のデジタルツールの効果的な活用方法を探る。 										
⑥ 達成度	<p>「はい、どちらかというとはい」と回答した生徒の割合（全学年：2学期末調査）</p> <table border="1"> <tr> <td>学年別達成目標</td> <td>1年 91.3%</td> <td>2年 77.3%</td> <td>3年 97.6%</td> </tr> <tr> <td>全学年共通達成目標</td> <td>1年 20.2%</td> <td>2年 17.5%</td> <td>3年 40.2%</td> </tr> </table> <p>※進路未決定の生徒の未回答も含まれるため、3学年の達成率はさらに上がる。</p>			学年別達成目標	1年 91.3%	2年 77.3%	3年 97.6%	全学年共通達成目標	1年 20.2%	2年 17.5%	3年 40.2%
学年別達成目標	1年 91.3%	2年 77.3%	3年 97.6%								
全学年共通達成目標	1年 20.2%	2年 17.5%	3年 40.2%								
⑦具体的な 取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 「産業社会と人間」と「総合的な探究の時間」に上級学校訪問、大学学部学科調べ、射水市政出前講座、系列科目登録説明会、県外進路研修、社会人班別講話、進路ガイダンス等を実施し、生徒の系列選択や進路意識を高めた。 1年生に対しては、新入生オリエンテーションを通して、手帳の活用を呼びかけ、各授業や担任との面談時に持参するように促した。また、手帳の活用本を各クラスに設置し手帳の使い方の例を担任より説明した。 										
⑦ 評 価	C	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育関連の目標について、1年生は達成、2年生もほぼ達成したといえる。3年生の進路目標についても達成した。 手帳の活用について、1、2年は使用する意識が低く、3年生になると高くなる。受験を控え、学習計画や面接日時など、必要性を感じたからこそその結果だと思われる手帳は学習に目標を持たせ、それを達成するための計画や振り返りをさせるために有効な手段といえる。しかし、生徒自身がその必要性を感じないと、なかなか実施させることは難しい。 1年生では日常的にメモを取る習慣作り、2年では予定を作る事と振り返りをするなど、段階的に手帳の使用方を指導してゆくのが良いと考える。また、定期テストの期間に集中して、テストまでの学習計画と学びの振り返り、提出課題の内容と締め切り期日を記入させるように指導していくのが良いのではないかと考える。 									
⑨学校関係者の意見	3年生の達成目標である「進路決定先に満足している生徒の割合 80%以上」は、95%以上などもっと高くしてもいいのではないかと。キャリア教育では、担当者がおっしゃるように積極的に職業調べを進めてほしい。										
⑩次年度へ向けての課題	本校の3年間を見通したキャリア教育は生徒の進路実現に大いに貢献しているので、次年度以降も継続していきたい。										

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

①重点項目	特別活動	
②重点課題	特別活動やボランティア活動など生徒の自主的な活動の充実	
③現 状	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事やホームルーム活動、委員会活動において生徒会役員やクラス委員を中心に新たな企画の提案や取り組みを意欲的に行っており、主体的に活動する機会が増えている。 部活動やボランティア活動に熱心な生徒がいる一方で、特別活動が学校生活を充実させたという意識が低い生徒が1割以上いる。 	
④達成目標	学校行事や各種特別活動に自主的に取り組み、自己達成感を持つ生徒の割合	学校生活を充実したものにするために、実際に行動したことがある生徒の割合
	90%以上	90%以上
⑤方 策	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会執行部と各委員会・クラス・部活動などが連携して活動を企画し、組織としての生徒会活動をより活性化させ、生徒の参加意欲を高める。また、体育大会等の学校行事では「一人一役」とし、役割意識を高めるとともにリーダー育成に努める。 部活動に関する問題点を洗い出し、自主的な運営方法など改善策について検討する。 校外清掃活動や地域行事への参加など生徒が人々の役に立ち喜ばれる機会を設けるとともに、ボランティア活動に関する情報をできる限り発信し参加する機会を増やす。 	
⑥達成度	<ul style="list-style-type: none"> 自己達成感を持つ生徒の割合については、体育大会と部活動から考察した。資料①より体育大会では満足度97.5%、役割意識95.0%であり、前年との比較では満足度の割合が低下しているが、役割意識についてはやり遂げたと回答する生徒の割合が増えた。やや不十分、できなかったと回答した生徒の理由は「当日欠席した」「係を忘れてしまった」など、責任感を感じているからこそその回答だと考えることができる。部活動は資料②、③より、所属している生徒の中の満足とまあ満足の割合が運動部と文化部、同好会のいずれも90%を超えている。 実際に行動したことがある生徒の割合は、資料④から考察した。特になしと回答した生徒は35人（全体の7.7%）で昨年より増加したが、昨年は学校祭があったため、学校祭がない2年前と比較すると減少している。また、2年で部活動を選ぶ人は他学年と比べ少ないが、クラス役員やボランティア、あいさつなど日常生活の中で何かしら行動したと推察した。学校行事だけでなく、日々の特別活動も生徒の今後の活動や行動力に影響を与えると推察できる。 	
⑦具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 体育大会では「一人一役」となるよう部活動ごとに役割を分担し、係主務者へはできるだけ生徒が動けるような環境づくりや役割分担となるよう依頼した。そのことから、係の役割をやり遂げることができたと感じた生徒の割合が増加したと考えられる。 資料④より、過年度比較するとあいさつで増加傾向が見られる。今年度も育成指導部では、あいさつに重点を置いた活動をしていたこととの関連があると思われる。また、ボランティアについても外部からの依頼が増えてきており、関心を持つ生徒も増えてきている。 ボランティア活動では、1・2年生が全員で行う地域清掃がある。3年生については希望者を募って小杉駅までのゴミ拾いを行う活動を実施したところ、約30人の生徒が集まったことから、少しずつではあるがボランティア活動に関心を持つ生徒が増加したのではないかと考える。また、外部の活動に参加する生徒も出てきている。（こども食堂等） 	
⑧評 価	A	どちらも目標数値をクリアしているので、今年度は目標が達成したと考える。
⑨学校関係者の意見	希望者を募ってのゴミ拾いに約30人の生徒が集まったのは素晴らしい。主体的に動く生徒を増やしてほしい。このように自発的に取り組む生徒が増えた理由を調べてみるとよい。	
⑩次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> 生徒は毎年変わっていくため、同じ活動をしたとしても今回のような結果が出るとは限らない。生徒が自己達成感を持てるようにするために、学校行事だけでなく各種特別活動に自主的に取り組みたいと考えることができる働きかけを続けていく必要がある。また、行事だけでなく日々の学校生活が生徒の行動力につながると考えられるため、生徒会執行部や委員会と連携を図り、生徒がさまざまな面で学校生活を充実したものにするために行動しようと思うきっかけづくりをしていければと思う。 部活動は強制して継続させる活動ではないことが前提だが、少しでも魅力的な活動となり最後まで続けたいと思える活動にしていくことが課題である。 	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)